CLONE UTILITY DJ-X8/X30 の使い方

この度は DJ-X8 をお求め頂き、誠に有り難うございます。

本プログラムはフリー・ソフトウェアであり、いかなる保証も行いません。プログラムをご利用になることで発生したハードウエア・他のソフトウェアやデータへのダメージなどは一切補償致しかねますので、ご了承ください。本プログラムの著作権はアルインコ（株）が所有しますが、商業利用を目的としない限りご自由にお使いいただけます。
「DJ-X8 Clone Utility」はオプションの ERW-7（USB ポート用）ケーブルを使って DJ-X8 とパソコンを接続することでお使いになれます。

【主な機能】
（１）VFO モードで初期設定されているバンド区分で、BAND キーを押したときに表示される周波数の変更
（２）ボリュームやスケルチレベルの設定
（３）カスタマイズできる各機能のパラメーター設定
（４）メモリー周波数データの入力やグループの関連付け
（５）初期設定のメモリーバンクのパーティションを最大 50 までに変更
（６）編集した上記データの保存・書き換え・他の DJ-X8 へのクローン

【ご注意】
＊当ソフト（以下、ソフト）は、Windows XP,7 と 10 での動作確認を行っております。
＊USB コンバーターを使用し、旧製品のシリアルポート用接続ケーブル ERW-4C を USB ポートに接続しての動作検証も行っておりますが、相性などにより動作しない場合はサポートできません。ERW-7 をご使用下さい。

【必ずお読みください】
このソフトはオプションで、上級ユーザー向けにサービスとしてご提供するものです。メモリーに何も書いていない状態で出荷される輸出モデルユーザーへのサービスを第一にしているため、インターフェースは英語のみとなっています。アプリが無くても受信機を使うことができるため、ユティリティはすべての方にお使いいただく意図をもって開発されたものではありません。このため、ソフトの操作についての個別サポートはしておりません。お電話でのお問い合わせは対応致しかねます。ソフトは、無線機への読み書き以外の操作はケーブルなしで全て行うことができます。ソフトをお使いになるにはパソコンの基本入力操作以外に、コントロールパネルにあるデバイスマネージャーを見る、場合によっては自分でドライバーソフトを外部のサイトからダウンロードしてインストールする、データの保存

と呼び出しができる、受信機の機能が理解できる、程度の知識が必要になります。バグや無線機、ケーブルの不具合に関するご連絡は電子事業部ホームページのお問い合わせフォームで承ります。ソフトのアップデートは製品の生産終了をもって終了します。新しく提供される OS に対応できなくなくなる可能性がございますので予めご了承ください。アプリの著作権はアルインコ(株)が所有しますが、商業利用を目的としない限りご自由にお使いいただけます。 上記に同意していただいた方のみ本ソフトをお使いいただけます。

【インストール・アンインストールについて】

＊インストールはインストーラーAlinco DJ-X8_Clone Utility 0.99.msi をクリックしてください。アンインストールはウインドウズのコントロールパネルから行ってください。

【操作方法について】

＊ソフトを立ち上げ、ERW-7 と DJ-X8 を接続した後で、MONI キーを押しながら DJ-X8 の電源を入れ、クローンモードにします(CLONE が表示されます)。

＊初めてお使い、あるいは違う USB ポートにケーブルを差し換えた場合は、ツールバーのツールメニュー→COM ポートセットアップ、を行ってください。アサインされた COM ポート番号はウインドウズのデバイスマネージャーで「ポート（COM と LPT）」に USB Serial Port が割り当てられている番号です。同じ番号をポイントします。

【読み出しと保存】

＊ ツール→読み出し→すべて、をクリックし、現在 DJ-X8 に登録されているデータをコピーします。接続が正しければ進行状態がプログレスバーで表示され、終了したら SUCCESS と FINISH がそれぞれ表示されます。「ファイル→名前を付けて保存」を選び、名前を付けて適当な場所にバックアップとして保存します。拡張子.ax8 のファイルです。

【ファイルを開く（作ったデータをソフトで開く）】

もしメモリーが消えたなど、上記の読み出しと保存ができなかったときはソフトをダウンロードしたフォルダーにある「メモリーデータ」に入っている 966ch_factory.x8 または AIR SP(Ver.2.01).AX8 ファイルをファイルメニューの開く、で指定してください。標準、又はエアバンドのデータが読み込まれます。自分で作ったファイルをソフトに読み込むときもこの操作をします。

【書き込み】

＊ ファイルメニューの開く、で書き込みたい.X8 型式のファイルを指定します。ソフト側にデータが反映されます。

＊ ツールの書き込み→全て、を選ぶと X8 にデータが転送されます。接続が正しければ進

行状態がプログレスバーで表示され、終了したら SUCCESS と FINISH がそれぞれ表示されます。電源を切り、ケーブルを抜いて電源を入れなおします。

【ソフトの操作】

本格的な編集を始める前に、短い、適当なデータを入力して X8 に書き込み、それがどう反映されるかチェックして、ソフトの使い方に慣れてください。バックアップしてある.ax8 ファイルを読み込めばいつでも初期状態に戻せますから、心配はいりません。

＊Settings1 はモデル選択（初期値は日本仕様 J）、リセットした時に設定されるデフォルトの音量とスケルチレベル、VFO モード時のバンドプラン変更です。VFO モードで BAND キーを押すごとに変わるバンドを、画面に記載されている周波数の範囲で変更できます。この設定だけを読み書きするには Write Settings/Read settings ボタンを使います。

＊Setting２は X8 の機能ボタンとセットモードでできる設定です。

＊Memory はメモリーモードのチャンネル編集です。周波数等を変更したい場合には、該当する行をダブルクリックします。編集ダイアログが表示されて、周波数・オプションなどを変更することができます。周波数は必ず半角数字で入力してください。「NOTE」欄は日本語を入力することができます。（「NOTE」欄は編集用のメモですので、DJ-X8 には反映されません。）変更が終わったら「OK」ボタンをクリックします。行った変更がメイン画面に反映されます。

＊ファイルに保存しなくても、編集状態のデータを読み出し・書き込みできます。操作する Read/Write ボタンにより、全体の読み書きと部分的な読み書きが行えます。部分的な読み出し・書き込みではデータが少ないため、プログレスバーが現れない場合もあります。

＊Bank タブは Memory と連動させて編集します。Memory で書いたバンク当たりのチャンネル数はこの Bank タブに書く数字に整合している必要が有ります。例えば 0 バンクに 50 チャンネルのメモリーを書いたのであれば、0 の 0 に 50 以上の数字を入力します。メモリーチャンネル数の合計は常に 1000 でないといけません。たとえば書きたいチャンネルが 0 バンク 10ch、1 バンク 10ch で、あとは使わない、というときは 2 バンク 980ch にしても良いですし、2 バンク 100ch,3 バンク 100ch…のように適当に区切ったバンクを作っておくこともできます。「成田空港の周波数」「羽田空港の周波数」のようにいくつでも任意のデータを作れるので、パソコン編集するときは使っていないバンクの切り方は余り気にしなくても良いでしょう。Total 欄が 1000 にならないと赤字で警告されるので、間違うことはありません。GRP はグループ設定（取扱説明書 P.51）の編集です。

＊既存のデータを新しく切ったバンクに任意に移動・仕分けする機能は有りません。多数のデータを編集するときは、ファイル→インポート・エクスポート機能を使い、CSV ファイルに変換して作業すると効率的です。編集した csv データはインポートするとソフトに読み込めます。間違ったデータを書くと正しく X8 に反映されません。最初に簡単なダミーデ

ータでデータの作り方を練習されることをお勧めします。
＊チャンネルが割り当てられていないバンク、割り当てられているが空きチャンネルでデータが何も書かれていないバンクはDJ-X8の液晶ディスプレイには表示されません。

【その他】
＊当ソフトは、DJ-X8 をより快適にお使い頂くためにご提供させて頂いておりますが、あくまで無償のオプションであり、製品のように弊社が責任を持ってメンテナンスやサポートを行う対象のものではありません。同梱のデータにもデジタル化して受信できない周波数がふくまれています。インターネットで「羽田　航空無線　周波数」「＊＊電鉄　鉄道無線　周波数」のように検索すると周波数情報が得られます。
＊弊社では、お客様のご依頼のデータを編集・書き込みすることや、オリジナルのチャンネルデータの定期的なアップデートなどは一切行っておりません。

2019年6月
アルインコ（株）電子事業部